

資料・証言による昭和南海地震前の四国の隆起について

The upheaval of southwestern Shikoku before the 1946 Nankai Earthquake suggested by the literature and the hearing investigation

重富 國宏[1]; 浅田 照行[2]; 梅田 康弘[3]; 辰己 賢一[4]

Kunihiro Shigetomi[1]; Teruyuki Asada[2]; Yasuhiro Umeda[3]; Kenichi Tatsumi[4]

[1] 京大・防災研・地震予知; [2] 京大・防災研・阿武山; [3] 京大・防災研; [4] 京大・防災研

[1] RCEP, DPRI, Kyoto Univ; [2] Abuyama Obs. DPRI, kyoto Univ; [3] DPRI Kyoto Univ.; [4] DPRI, Kyoto Univ

1. 梅田モデルの検証

昭和南海地震(1946、M8.0)の1週間前から直前にかけて、紀伊半島から四国の太平洋沿岸の広い範囲で、井戸水が減った或いは涸れたという報告(水路局、水路要報、1948)を基に、梅田・他は地震前に井戸水が減少するメカニズムについてのモデルを提唱している(地震予知連絡会会報、第70巻、2003)。モデルには検証が必要である。梅田モデルにおいては、地震発生前のプレスリップによる隆起を前提としている。橋本は、昭和南海地震のコサイスマック断層モデルを基にシミュレーションをおこない、地震前の地下水位低下がみられた地域がプレスリップによる隆起地域と矛盾しないプレスリップ断層モデルを提唱した(地震予知連絡会会報、第70巻、2003)。これにより、梅田モデルは一つの現実性を得たもといえる。一方、地震前の隆起を直接裏付けるような明確な観測事実は見出されていない。そこで我々は、地震前の隆起現象ともっとも関連の可能性が考えられる地震前の異常潮位現象に注目し、史料・証言等による調査を試みた。

2. 須崎市野見湾の異常潮位

地震前の異常潮位についてはいくつかの報告の中に散見するが、異常潮位が海底の隆起によるものとの可能性を示唆するものとしては、現在までの我々の調査の範囲で、地震前の海底地殻変動(隆起)である可能性を示唆する異常潮位について記されているものに、高知県須崎市発行(1995)「海からの警告」がある。同書に、地震発生前日1946年12月20日の夜半から地震発生直前までの、須崎市野見湾における異常潮位についての漁師の証言を纏めたものがある。それによれば、日没を待って外海の漁場に向かった漁船が操業を終え、帰途の途中、異常な干潮に遭遇し、上げ潮になっても潮位が上がらず船を舫うのに難儀した事態が詳しく記されている。海底の隆起の可能性を覗わせる貴重な資料である。体験者の証言を交えて紹介する。